

平成26年度病院医学教育研究助成成果報告書

報告年月日：平成27年4月14日

研究・研修課題名	医療安全管理の質向上を目的とした“医療安全管理”に関する講習会および研修会への参加
研究・研修組織名（所属）	医療安全管理室およびリスクマネジャー会議
研究・研修責任者名（所属）	廣瀬 昌博（医療安全管理室およびリスクマネジャー会議）
共同研究・研修者名（所属）	古川 泰弘（MSW）、新藤 舞（MSW）

目的及び方法、成果の内容

①目的

医療安全対策加算I算定病院の本院においては、医療安全管理対策は医療法上必須で、患者の安全と医療の質の向上を確保するためには不可欠である。この活動は80余名のリスクマネジャーによって支援されている。これらリスクマネジャーの医療安全管理に関する知識やスキルを向上することで本院の医療安全管理活動の推進を図るものである。とりわけ、昨今の患者－医療者パートナーシップを良好に維持する手法として、医療メディエーターの担う役割が大きくなりつつある。

②方法

医療安全管理は組織横断的でしかもあらゆる職種の協力があってはじめて成立し、医療従事者は医療安全管理のエキスパートであることが必須である。そこで、医療安全に関するエキスパートを養成することを目的として、日本医師会、日本医療機能評価機構や各種団体等が開催する「医療安全管理」の研修会やセミナーへ参加させる必要がある。しかしながら、それら研修会や講習会のほとんどは東京など首都圏で開催されている。そのうち、本院職員でも受講可能な、研修会について上記目的を達成するために参加するものである。

医療事故情報の分析と報告に関する研修会（日本医療機能評価機構主催）などは、新しくリスクマネジャーになった者が、インシデントの解析を行う際に必要な基本的知識を習得するためのプログラムである。その他、適宜、適切な研修会を選別し、本年度に3名程度参加する予定である。

本年度は、これら研修会のうち、医療メディエーターに必要な基本事項を修得するための養成プログラム（導入基礎編）に2名のソーシャルワーカーが参加した。

③成果

リスクマネジャーなど病院における医療安全管理をサポートする医療従事者が医療安全管理に関する教育を体系的に受講することで、病院内の医療安全管理に対する関心が高揚するとともに医療安全管理体制が強化され、医療の質も向上する。ひいては、患者の安全確保に貢献し、日常診療におけるインシデント、アクシデント、および医療事故や医事紛争などを減少させることにつながり、病院経営にも寄与することが大いに期待される。また、医療は患者－医療者の信頼関係を基盤に成立するものであるが、医療事故やインシデント、アクシデントの発生があった場合などには両者の関係を保持するのが困難な場合が多い。そのような折に医療メディエーターにより患者－医療者関係を修復する、などの改善につながる。今年度は2名のソーシャルワーカーが、以下の医療メディエーター養成

プログラム（導入基礎編）を受講した。

研修を終え、日々、地域支援の相談・患者の苦情等の対応を行う際、どちらか一方の側の意見を代弁したり、解決策を示すことではなく、ひとりひとりに寄り添い、患者側と医療者側の対話の橋渡しの役割が果せるような活動を行っている。さらに、個々の相談レベルをあげカンファレンスの充実を図ること、医療安全活動との連携、患者満足度の向上に向けた活動を行うことが、組織として、患者対応および医療の質・安全の向上にもつながっていると考える。

1) 新藤舞

○日本医療メディエーター協会認証

院内医療メディエーター養成教育プログラム（導入基礎編）

開催日：平成26年8月16日（土）17日（日）

場所：島根県立中央病院 島根県出雲市姫原4丁目1-1

講師：山形大学医学部総合医学教育センター 准教授 中西 淑美

独立行政法人労働者健康福祉機構 愛媛労災病院 院長 中西 文久

内容：1日目9時30分～18時30分(9時受付開始)

午前：オリエンテーション，講義

午後：講義，導入ロールプレイ

2日目9時00分～17時00分

午前：講義，演習ロールプレイ

午後：演習ロールプレイ

2) 古川泰弘

○日本医療メディエーター協会認証

院内医療メディエーター養成教育プログラム（導入基礎編）

開催日：平成26年8月16日（土）17日（日）

場所：島根県立中央病院 島根県出雲市姫原4丁目1-1

講師：山形大学医学部総合医学教育センター 准教授 中西 淑美

内容：1日目9時30分～18時30分(9時受付開始)

午前：オリエンテーション，講義

午後：講義，導入ロールプレイ

2日目9時00分～17時00分

午前：講義，演習ロールプレイ

午後：演習ロールプレイ